Givery, Inc.

事前準備ガイド

上流工程 要件定義・設計 生成AI活用研修　株式会社インフォメーション・ディベロプメント様向け

期限 **10月7日（水）まで** | 所要 [22min]前後 | Day1 2026年10月8日（木）

事前準備の分担

貴社の手順書	このガイド
ツールを導入する	**置いて、読ませて、確かめる**
Claudeデスクトップアプリ、Git、Python、Node.js、LibreOfficeを入れます。	配布フォルダをデスクトップに置き、Claudeに読み込ませ、環境チェックで確かめます。

当日の演習の途中で変換ツールが動かなかったり、ファイルが開けなかったりすると、その演習をそこから先へ進められません。3回の研修は前の回の成果物を次の回で使うので、1回の遅れがあとまで響きます。導入が済んだら、このガイドの6つのStepで、当日と同じ操作が通ることを先に確かめておいてください。

10月7日（水）までに済ませてください。Step 4 の環境チェックでNGが残った方は、どの行がNGだったかを、貴社の研修ご担当者を通じてお知らせください。

Step 1 導入するものの確認

STEP 1　表の6項目がパソコンにそろっている　[3min]

なぜ要るか

下の図のように、ツールを入れるのは貴社の手順書、入ったあとの置き場所と確かめはこのガイドの受け持ちです。

研修では、Claudeデスクトップアプリに頼んで、Markdownの文書をWord、Excel、PowerPointに変換し、LibreOfficeで開いて確かめます。1つでも欠けると、その演習の途中で止まります。導入の手順は貴社の手順書にあるので、ここでは何がそろっていればよいかだけを確かめてください。

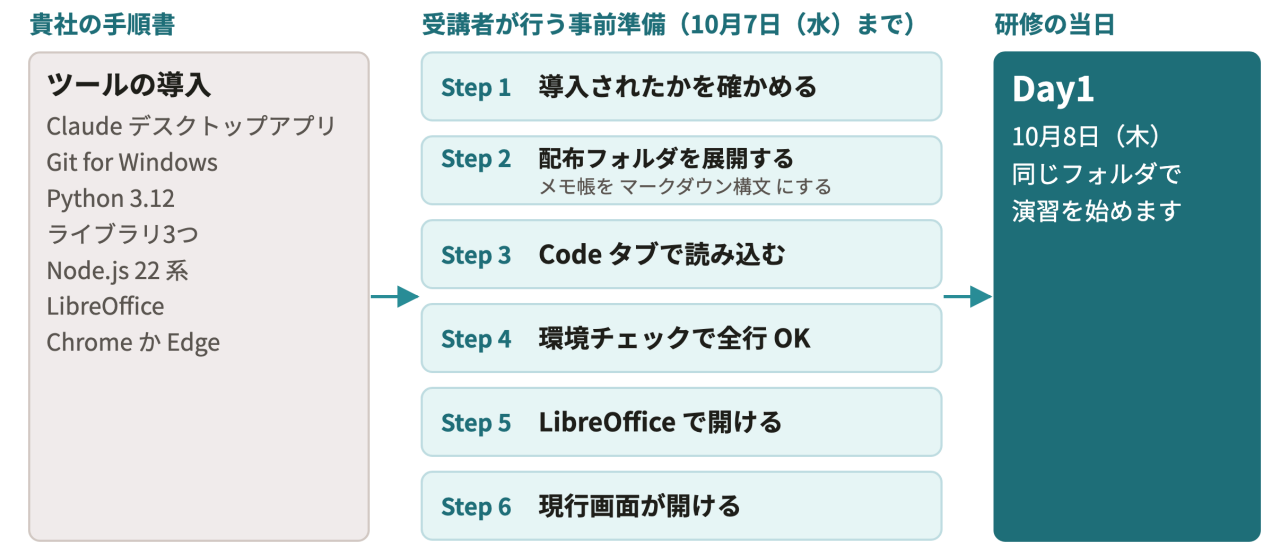


図1：事前準備の全体の流れ。ツールの導入は貴社の手順書で行い、そのあとStep 1〜6を受講者の方が進めます

手順

項目	版	研修での使い道	どこで確かめるか
Claudeデスクトップアプリ	Windows x64の最新版	Codeタブで演習をします。貴社から案内されたアカウントでサインインしておきます	Step 3
Git for Windows	最新版	Codeタブを使うために要ります。研修でGitの操作はしません	Step 4
Python	3.12系。python-docx、openpyxl、python-pptxを含む	変換ツールと環境チェックをClaudeが動かします	Step 4
Node.js	22 系のLTS	受講者が直接使うことはありません	Step 4
LibreOffice	最新の安定版	作ったWord、Excel、PowerPointを開いて確かめます	Step 5
ブラウザ	ChromeまたはEdge	現行画面と、演習で作るモックを開きます	Step 6

1. Windowsの **設定** → **アプリ** → **インストールされているアプリ** を開きます。
2. 表の6項目が一覧にあるかを、名前で検索して確かめてください。Pythonは「Python 3.12」、Gitは「Git」と出ます。Pythonのライブラリ3つは一覧に出ないので、Step 4の環境チェックで確かめます。
3. 足りないものがあれば、貴社の手順書に従って導入します。
4. Claudeデスクトップアプリを起動し、貴社から案内されたアカウントでサインインします。

使わないもの

次のものは研修で使いません。入っていなくても構いませんし、入っていても開きません。

もの	扱い
JDK、Maven	Javaのコードを書いたり動かしたりする場面はありません
TomcatなどのWebサーバ	現行画面とモックは、HTMLをダブルクリックで開きます
VS Code、WSL、ターミナル	操作はすべてClaudeデスクトップアプリのCodeタブで行います
Microsoft Office	Word、Excel、PowerPointの形式のファイルはLibreOfficeで開きます
PowerShell 7系	Windowsに最初から入っている5系のままで構いません

確認

- ☐ 表の6項目が、インストールされているアプリの一覧にある。Pythonのライブラリは Step 4で確かめる
- ☐ Claudeデスクトップアプリにサインインできる

Step 2 配布フォルダの展開

STEP 2 **エクスプローラーのアドレス欄がC:\Users\<名前>\Desktop\idup-handsonになっている** [7min]

なぜ要るか

演習で読むヒアリングメモ、データ、テンプレート、変換ツールは、すべて配布フォルダに入っています。Claudeはこのフォルダの中のファイルを読み、作ったファイルもこの中の `成果物/` に置きます。使うフォルダは、3回ともこの配布フォルダです。

手順

1. 上のボタンから `idup-handson_20261008.zip` をダウンロードします。
2. エクスプローラーで `ダウンロード` を開き、ZIPを右クリック → `すべて展開` を選びます。
3. 展開先の欄を `C:\Users\<名前>\Desktop` に書き換えます。`<名前>` はサインインしているWindowsのユーザー名です。`参照` でデスクトップを選んでも同じです。
4. `展開` を押すと、デスクトップに `idup-handson` フォルダができます。
5. `idup-handson` を開き、アドレス欄の何もないところをクリックします。表示がパスの文字に変わるので、それを読みます。

6 エクスプローラーの `表示` → `表示` → `ファイル名拡張子` に印を付けます。`成果物/` に同じ名前の.mdと.docxが並んだときに、見分けられるようにするためです。

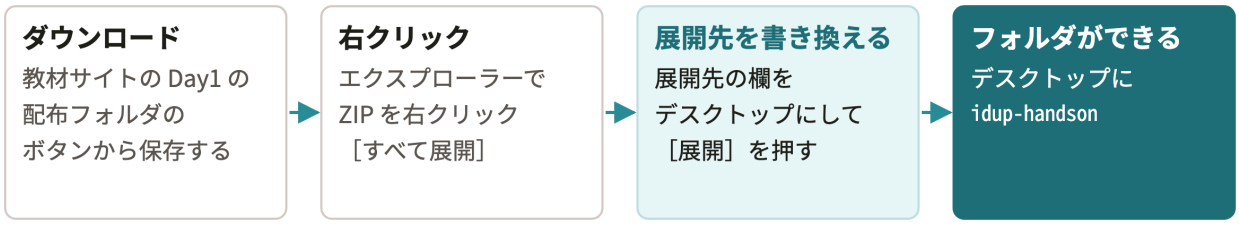


図2：ZIPの展開の流れ。右クリックのメニューの `すべて展開` を選び、展開先をデスクトップに書き換えます

配布フォルダの中身

展開したフォルダの中は、下の図の形になっています。演習で読むものは `資料/`、作ったものは `成果物/` に入ります。



図3：配布フォルダidup-handsonの中身

フォルダ	中身
`資料/day1/` `資料/day2/` `資料/day3/`	ヒアリングメモ、改修依頼書、レビュー対象の画面設計書。各回の演習で読みます
`資料/データ/`	9月の勤怠工数CSV、マスタ、予定工数表、問い合わせ履歴、売上実績表
`資料/データ/過去分/`	7月と8月の勤怠工数CSV
`資料/データ/請求回収/`	6月からの請求一覧と入金明細
`資料/参考/`	現行のテーブル定義書、CSV出力仕様書、月次締め運用手順書、入力チェックの書き分け、用語集
`資料/記入例/`	会議室予約システムという別の題材で書いた、要件一覧、要件定義書、画面設計書、レビュー記録の記入例
`資料/発展/`	早く終わった方が発展課題で使う資料。ファイル名は演習番号で始まります
`現行画面/`	KINTAIの現行画面のモック。ブラウザで開きます
`テンプレート/` `tools/`	成果物の雛形6本と、Word・Excel・PowerPointへの変換ツール
`成果物/`	作ったファイルを置く場所。day1、day2、day3のフォルダと、合流版を展開する場所の 合流用 があります
`.claude/`	Claudeの設定です。開いたり消したりしません

`資料/`の中は読むだけで、書き換えません。`資料/`は`.claude/settings.json`の設定で、Claudeのファイル編集とコマンドからの書き込みを止めてあります。pythonのスクリプトは止められないので、コマンドを読んで、`資料/`に書き込む内容のときは拒否します。

OneDriveのデスクトップとの見分け方

会社のパソコンでは、デスクトップがOneDriveと同期されていることがあります。見た目は同じデスクトップでも、置かれている場所が違います。決め手は、アドレス欄のパスにOneDriveの文字が入っているかどうかです。入っていたら置き直します。

アドレス欄の表示	場所	扱い
`C:\Users\<名前>\Desktop\idup-handson`	個人のデスクトップ	このまま進めます
`C:\Users\<名前>\OneDrive\Desktop\idup-handson`	OneDriveと同期したデスクトップ	置き直します
`C:\Users\<名前>\OneDrive - 会社名\Desktop\idup-handson`	会社のアカウントのOneDriveと同期したデスクトップ	置き直します

OneDriveの中に置くと、Claudeがファイルを書き換えるたびに同期が走ります。同期の途中のファイルを読んだり、競合したコピーができたりして、演習の途中でファイルが食い違うことがあります。

デスクトップがOneDriveにしかない場合は、展開先を`C:\Users\<名前>`にして、`C:\Users\<名前>\idup-handson`に置いてください。OneDriveの外なら、別の場所でも構いません。

展開先を`C:\Users\<名前>\Desktop`にしたのに、画面のデスクトップに`idup-handson`が出てこないことがあります。画面に見えているデスクトップがOneDrive側のときです。展開のあとに開いたウィンドウのアドレス欄が正しい場所なので、そのまま進め、Step 3ではそのフォルダを選びます。



図4：置き場所の見分け方。アドレス欄のパスにOneDriveの文字が入っていたら、OneDriveの外へ置き直します

> **Tips** エクスプローラーでは、ZIPを展開しなくても中を開いて見られます。その状態ではClaudeがファイルを読み書きできないので、必ず`すべて展開`をしてください。

> **Tips** 開いたフォルダの中にもう1つ`idup-handson`がある二重の状態になったら、内側の`idup-handson`をデスクトップへ移し、外側の空のフォルダは消して構いません。

メモ帳での.mdの表示

研修では、ヒアリングメモなどの.mdのファイルをメモ帳で読みます。Windows 11のメモ帳は、.mdを`書式付き`の表示で開くことがあります。書式付きのままだと空行が行数に入らないので、下の帯の行番号がファイルの行番号とずれ、`#`や`|`も画面に出ません。Claudeは根拠をファイルの行番号で示すので、ずれたままだと根拠の行を探せません。

1. `idup-handson`の中の`はじめにお読みください.md`を右クリック → `プログラムから開く` → `メモ帳`を選びます。
2. 表示のしかたを選ぶ画面が出たら、`Markdown構文ビューで開く`を選びます。出なければ、そのまま次へ進みます。
3. メモ帳で.mdを開いたら、下の帯の右側を見てください。`書式付き`と出ていたら押して、`マークダウン構文`に切り替えます。下の帯が出ていないときは、`表示` → `ステータス バー`に印を付けます。
4. `表示` → `右端で折り返す`の印を外します。
5. 1行目の先頭に`#`が見え、2行目が空いた行になっていることを確かめます。
6. 保存せずに閉じます。

> **Tips** 研修中も、.mdをメモ帳で開くたびに下の帯の右側を見て、`マークダウン構文`になっていることを確かめます。

確認

- ☐ アドレス欄が`C:\Users\<名前>\Desktop\idup-handson`になっている。OneDriveの外に置いた方は、そのパスになっている
- ☐ 開いたフォルダの中に、`資料` `現行画面` `テンプレート` `tools` `成果物` `.claude`と`CLAUDE.md`が見え、`資料`の中に`参考` `記入例` `発展` `データ`がある
- ☐ `はじめにお読みください.md`をメモ帳の`マークダウン構文`の表示で開き、1行目の`#`が見えた

Step 3 Codeタブでの読み込み

STEP 3 **Claudeデスクトップアプリの画面の上部にidup-handsonと出ている** [3min]

なぜ要るか

Claudeは、開いたフォルダの中だけを読み書きします。フォルダを開くと、最初に`CLAUDE.md`を読み、そこから`AGENTS.md`の約束ごとを読み込みます。約束ごとの例は、要件に根拠を付けることです。`資料/`は`.claude/settings.json`の設定で、Claudeのファイル編集とコマンドからの書き込みを止めてあります。pythonのスクリプトは止められないので、コマンドを読んで、`資料/`に書き込む内容のときは拒否します。

手順

1. Claudeデスクトップアプリを開き、上の`Code`タブを選びます。
2. 環境が`ローカル`になっていることを確かめます。
3. `フォルダを選択`を押し、Step 2で置いた`idup-handson`を選びます。



図5：Codeタブで配布フォルダを開くまでの流れ

> **Tips** 環境の`ローカル`が灰色で選べないときは、社内の設定でローカルでの実行が止められています。ご自身では直せないので、貴社の研修ご担当者に知らせてください。

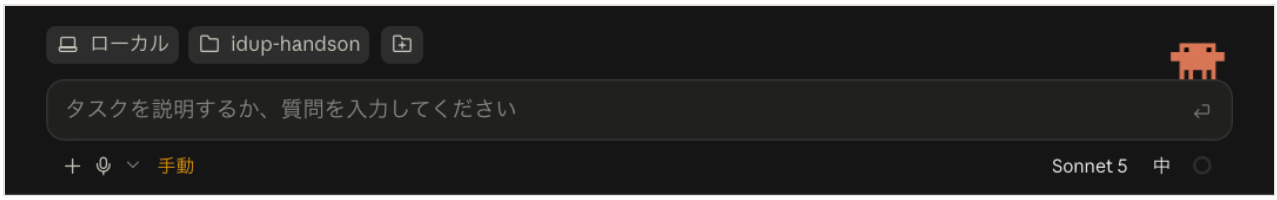


図6：Codeタブで、環境が ローカル になっているところ



図7：idup-handsonを開いたあと。画面の上部にフォルダ名が出ます

確認

- [ ] 画面の上部に `idup-handson` と出ている

Step 4 環境チェック

STEP 4 環境チェックの表の全行がOKになっている [5min]

なぜ要るか

Python、3つのライブラリ、Git、Node.js、LibreOfficeがそろっているか、配布フォルダの置き場所と中身、`成果物/` に書き込めるかを、配布フォルダの `tools/check_env.py` がまとめて確かめます。自分で実行する必要はありません。Claudeに頼むと、Claudeが実行して結果を表にします。当日と同じ手順でClaudeにコマンドを実行させる練習も兼ねています。

研修中にファイルを作る流れは、下の図のとおりです。環境チェックで確かめるPython、変換ツールのライブラリ、LibreOfficeは、この流れの途中で使うものです。

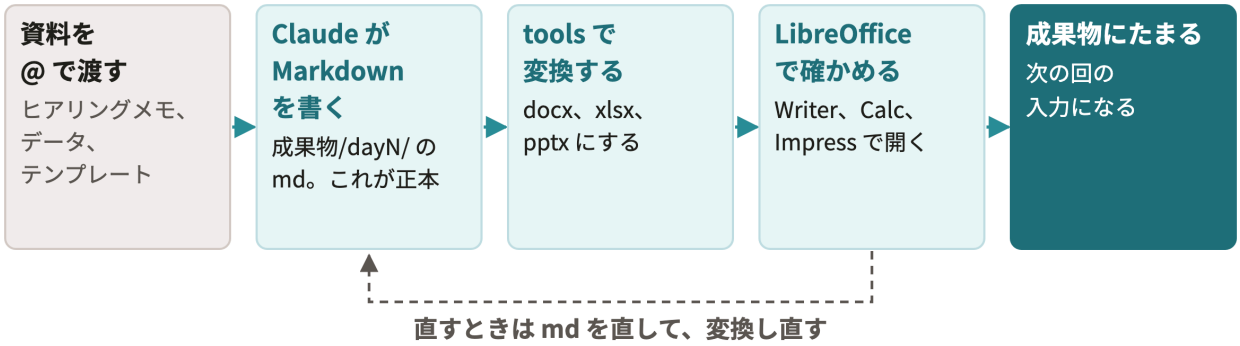


図8：研修中のファイルの流れ。ClaudeがMarkdownを書き、変換ツールでOffice形式にして、LibreOfficeで確かめます

手順

1. Codeタブの入力欄に、下の文面を入れて送ります。
2. コマンドを実行してよいかを聞かれたら、コマンドが `python tools/check_env.py` か `py tools/check_env.py` になっていることを見て `一度だけ許可` を押します。ボタンは `拒否` `常に許可` `一度だけ許可` の3つです。`常に許可` は押しません。
3. Claudeが結果を表で返すので、全行がOKかを見ます。

Claudeに送る文面

```
環境チェックをして
```



図9：コマンドを実行してよいかを聞かれたところ。`一度だけ許可`を押します。Macで撮ったので⌘と出ていますが、WindowsではCtrlです

項目	結果	中身
Python	OK	3.12.9
python-docx	OK	1.2.0
openpyxl	OK	3.1.5
python-pptx	OK	1.0.2
Git	OK	2.50.1
Node.js	OK	v25.1.0
LibreOffice	OK	/opt/homebrew/bin/soffice
置き場所	OK	配布フォルダ直下
配布フォルダの中身	OK	そろってる
成果物への書き込み	OK	書き込める

図10：環境チェックの結果の表。表の言い回しは、そのときのClaudeの返事で少し変わります

結果の読み方

環境チェックは、1行に1項目ずつ、OKかNGと、項目名、詳細を出します。NGの行には、すぐ下に直し方が出ます。Claudeが返す表は、この出力をまとめたものです。版の数字は人によって違います。

```
環境チェック結果
----------------------------------------
[OK] Python 3.12.x（C:\Users\<名前>\AppData\Local\Programs\Python\Python312\python.exe）
[OK] python-docx 1.x.x
[OK] openpyxl 3.x.x
[OK] python-pptx 1.x.x
[OK] Git git version 2.xx.x.windows.x
[OK] Node.js v22.xx.x
[NG] LibreOffice 見つかりません
    直し方: 既定の場所に無いときも NG になります。確認用.pptx が LibreOffice で開ければ研修は受けられます。入っていなければ、貴社の手順書に従って最新の安定版を入れてください
[OK] 置き場所 C:\Users\<名前>\Desktop\idup-handson
[OK] 配布フォルダの中身 そろっています
[OK] 成果物への書き込み 書き込めます
----------------------------------------
```

```
確認用ファイル: C:\Users\<名前>\Desktop\idup-handson\tools\sample\確認用.pptx
LibreOffice で開けるか確かめてください。
```

この例では、LibreOfficeだけがNGです。

最後に出る確認用ファイルを、LibreOfficeで開くのがStep 5です。

NGが出たときの直し方

NGの項目	直し方
Python	Claudeが「pythonが見つからない」と返したら、「pyで実行して」と送ります。どちらも見つからないときは、Windowsの `設定` → `アプリ` → `アプリの詳細設定` → `アプリ実行エイリアス` で `python.exe` と `python3.exe` をオフにします。Claudeデスクトップアプリを開き直し、同じ文面をもう一度送ってください。版が3.12より古くてNGのときは、「py -3.12 tools/check_env.pyで実行して」と送ります。「No suitable Python runtime found」と出たら、「py -0 を実行して」と送り、入っている版を見ます。3.12がなければ、貴社の手順書で3.12を入れてください
python-docx、openpyxl、python-pptx	貴社の手順書のライブラリ導入の項をやり直します。社内のネットワークの設定によっては、手順書にある方法でないと入りません
Git	Codeタブを使うために要ります。貴社の手順書で導入してください。入れた直後でNGのままなら、Claudeデスクトップアプリを終了して開き直してから、もう一度送ります。アプリは起動したときの設定で動くので、あとから入れたものは開き直すまで見えません
Node.js	貴社の手順書で導入します。受講者が直接使うことはありません。入れた直後でNGのままなら、Gitと同じくClaudeデスクトップアプリを終了して開き直します
LibreOffice	既定の場所に見つからないときにNGになります。別の場所に入れた場合は、Step 5でファイルが開ければ研修は受けられます。入っていなければ、貴社の手順書で導入してください
置き場所	OneDriveの中にあるとNGです。`C:\Users\<名前>\idup-handson` のようなOneDriveの外へ移し、Codeタブで開き直します。展開したフォルダの中にもう1つ `idup-handson` があるときは、内側をデスクトップへ移し、外側の空のフォルダを消してから開き直します。パスが長すぎると出たときは、デスクトップ直下など浅い場所へ移してください
配布フォルダの中身	ZIPを展開し直します。二重のフォルダになっていないか、ZIPの中を開いたままになっていないかをStep 2で見直してください。`.claude/settings.json` が無いときや、中身が書き換わっているときもNGになります。このときもZIPから展開し直します
成果物への書き込み	Windowsセキュリティの `コントロールされたフォルダー アクセス` や、フォルダの読み取り専用を確かめます。直せないときは、貴社の研修ご担当者を通じて講師に知らせてください

確認

- [ ] 環境チェックの表の全行がOK。LibreOfficeだけNGの方は、Step 5でファイルが開けること

Step 5 LibreOfficeでの表示

STEP 5 **確認用.pptxを開き、スライドが1枚表示されている** [2min]

なぜ要るか

研修で作る要件定義書はWord、画面設計書とレビュー記録はExcel、レビュー会資料はPowerPointの形式です。Microsoft Officeのないパソコンで、これをLibreOfficeで開けることを先に確かめます。

手順

1. エクスプローラーで `idup-handson` → `tools` → `sample` を開きます。
2. `確認用.pptx` を右クリック → `プログラムから開く` → `LibreOffice Impress` を選びます。一覧にないときは `別のプログラムを選択` から探します。
3. 初めて起動したときに出る案内の画面は、閉じて構いません。

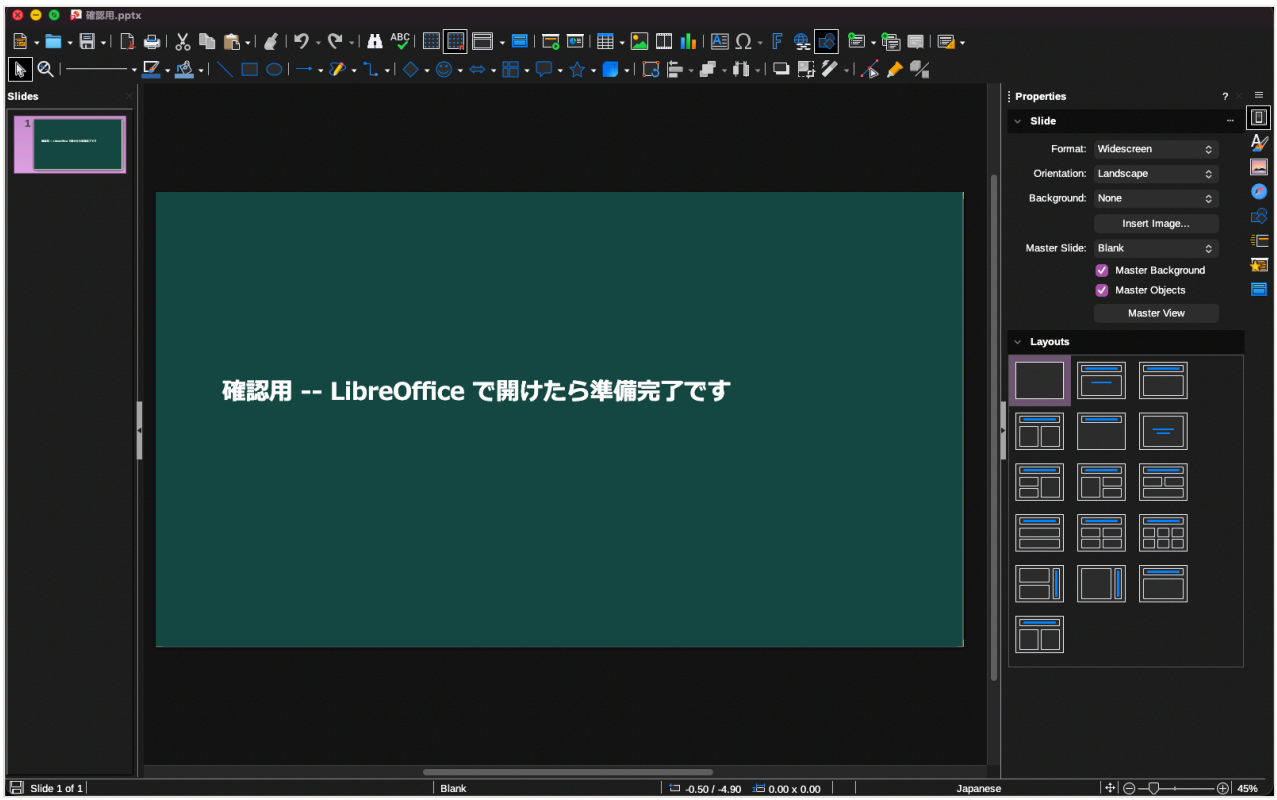


図11：確認用.pptxをLibreOffice Impressで開いたところ。英語表示のMac版で撮っています。Windowsの日本語版ではメニューが日本語です

> **Tips** `プログラムから開く` で `常にこのアプリを使って.pptxファイルを開く` に印を付けておくと、当日はダブルクリックで開けます。.docxと.xlsxも同じようにしておくと、演習中の手間が減ります。

> **開いた確認用.pptxは保存せずに閉じてください。** 確かめるためのファイルなので、中身を変えずに残しておきます。当日うまく開けないときに、同じファイルで開き直して確かめられます。

確認

- ☐ スライドが1枚表示された

Step 6 現行画面の表示

STEP 6 **KINTAIのメニュー（KIN010）がブラウザに出ている** [2min]

なぜ要るか

演習の題材は、架空の会社の勤怠・工数管理システムKINTAIの改修です。配布フォルダに入っている現行画面のモックを、ブラウザで開けることを確かめます。サーバは要りません。

手順

1. エクスプローラーで `idup-handson` → `現行画面` を開きます。
2. `index.html` をダブルクリックします。ChromeかEdgeが開きます。
3. メモ帳など別のアプリが開いたときは、右クリック → `プログラムから開く` → ChromeかEdgeを選びます。

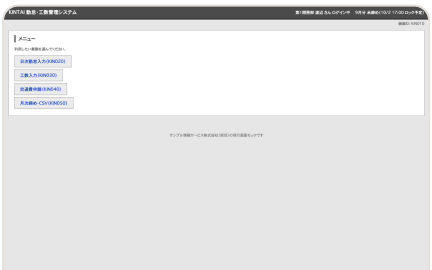


図12：KIN010メニュー。各画面へのリンクと、ログイン中の氏名、締め状態が出ます

確認

- ☐ KINTAIのメニューが出て、各画面へのリンクが並んでいる

最終確認

CHECK　10月7日（水）までに、ここがそろっていれば準備は完了です

- ☐ 表の6項目がそろい、Claudeデスクトップアプリにサインインできる（Step 1）
- ☐ 配布フォルダがOneDriveの外にあり、アドレス欄で場所を確かめた（Step 2）
- ☐ メモ帳で.mdをマークダウン構文の表示にできた（Step 2）
- ☐ Codeタブで〔idup-handson〕を開いた（Step 3）
- ☐ 環境チェックの表の全行がOK（Step 4）
- ☐ 確認用.pptxがLibreOfficeで開けた（Step 5）
- ☐ KINTAIのメニューがブラウザに出た（Step 6）

よくある質問

管理者権限がなく、ツールを入れられません

ツールの導入は、貴社の手順書と社内のご担当者の案内に従ってください。研修で使うパソコンは、管理者権限のある共通ユーザーで準備していただく前提です。

「環境チェックをして」と送ったのに、表が返ってきません

コマンドを実行してよいかの確かめで `一度だけ許可` を押していないと、止まったままになります。確かめの表示が見当たらなければ、「`python tools/check_env.py` を実行して、結果を表にしてください」と送り直してください。

Codeタブでフォルダを選ぶと、idup-handsonの中にもう1つidup-handsonがあります

ZIPを展開したときに二重になっています。内側のフォルダをデスクトップへ移し、外側の空のフォルダは消してください。Codeタブでは、移した内側のフォルダを開き直します。

デスクトップがOneDriveにしかありません

展開先を `C:\Users\<名前>` にして、`C:\Users\<名前>\idup-handson` に置いてください。当日の手順は、どこに置いても同じです。

配布フォルダの日本語のファイル名が化けています

Windowsのエクスプローラーの `すべて展開` で展開し直してください。ほかの展開ソフトでは、日本語のファイル名が化けることがあります。

Codeタブで、接続のエラーや証明書のエラーが出ます

社内のプロキシや、通信の検査のための証明書が原因のことがあります。貴社の情報システムのご担当者に確かめてください。プロキシや社内の証明書は、Codeタブの環境 `ローカル` の歯車を押して開く環境の編集で、`HTTPS_PROXY` や `NODE_EXTRA_CA_CERTS` として設定できます。入れる値はご担当者の案内に従ってください。

Macでも受講できますか

研修は、貴社配布のWindows 11のパソコンを前提にしています。配布フォルダもWindows用です。

事前準備が期限までに終わりませんでした

どのStepで止まったかを、貴社の研修ご担当者を通じてお知らせください。当日は、Zoomに入った時点でチャットに書いていただければ、講師が確かめます。

© Givery, Inc.

※題材のサンプル情報サービス株式会社とKINTAIは、研修のために作った架空のものです。